

發行兼編輯人 川崎文治

定部金貳圓 一ヶ月廿錢 三ヶ月五拾錢 半年九拾錢 一年一圓七拾錢

印刷所 東京市神田區錦町三丁目三番地 電話六三〇番

本報下開各地(電話六三〇番) 印刷所 東京市神田區錦町三丁目三番地 電話六三〇番

三十三日夕刊

の石流海最

ニスモ

賣廉大

柏屋

目ヲ二平

和服一般教授

持設夜間教授

生花茶ノ湯作法隨意

目炊ノ便アリ

平鍛治町吉田屋呉服店向へ

阿部裁縫塾

電話二四六番

赤心堂

病院

平町田町

電話四七五番

京都産出瓦斯販賣 有聲遊樂

コーラス特約販賣

小店員!!

和久井屋

數名人用!!

目丁一町平

常 警 論 壇

如何に子供を愛すべきか

白柳秀湖

(三)

併し人間の子は後家さんが犬猫を可愛がるやうにして可愛がり、お嬢さんが人形を可愛がるやうにして可愛がりたくない。子供を可愛がるは子供を健康に育て上げるに越したことはない。子供の育て方の一つも知らないうちに子供の死んだことを創作の犠牲だなどいひ、それで今時の若いもの人気が呼んで行かうなど何と

山吉印醬油

美味

經濟

森永

ミルクココア

御家庭用六十カ入

一罐六十錢

ヤトモツマ

番四一二話電

温かい保健飲料

森永

ミルクココア

御家庭用六十カ入

一罐六十錢

ヤトモツマ

番四一二話電

公債

債券

買

大正生命保險株式會社

代理店

多田井質店

平町大工町

吉田屋染工場

手拭、消防被服 専染所

印半天、風呂敷

小店員募集

弟子さん

平町五丁目

電話五五八番

いふ淺猿しい親心であらう胃腸から来た熱を風引きの熱と間違へて厚著をさせ、無理に除病を起させたりしたのが創作と何の關係がある。死んでから歌を詠み文章を作りいろく／＼に勿體をつけて、甚しきは飯の種にしようとするが、生きて居た時の手當といふものは成つて居ない若い細君が大かたは無理に子供を殺して居る。さうした家庭に灌腸器の一つも備へてあるのが何軒ある、日本の醫者は測計温器の使用は教へる、併し灌腸器の使用は決して教へない。攝政宮様の妃殿下に御慶事がある。御慶事の紀

念として子供を可愛がる仕事を企てるといふ、それは大變よいことである。皇室に於いても定めてさうした企てを御喜びにならう併し何が子供を可愛がり何が子供を大切にすることが出来るかは六つかしい御慶事と同日に生れた子の寫真を片端から新聞に掲載するかやうなことを決して聰明なお上の喜ばれる道理がない。メダを授けられた子が腦膜炎で死んでしまつたり、榮養不良で斃れたり甚しきはメダルを授けられた子供が長じて泥棒とならぬとも限らぬ。(をばり)

磐城共濟病院

院長醫學博士 助川喜四郎

副院長醫學博士 藤井秀旭

醫學博士 竹内俊一

醫學博士 押川公介

醫學士 小池徳造

醫學士 近藤潤平

醫學博士 河合健吉

耳鼻咽喉科醫學博士 松本本松

醫學士 澤口清治

藥劑士 吉本孝平

顧問醫學博士 大瀧潤家

校舍

産婆

看護婦

生徒募集

一、入學資格 小學卒業程度

一、修業年限 兩科通じて一ケ年

一、入學申込 三月末日迄(寄宿ノ便アリ)

海岸線平町南町

平産婆看護婦學校

電三〇七

城山磐城佑賢學舎

生徒募集

左ノ事項ニヨリ本科生百五十名、普通科第一學年生百五十名ヲ募集ス

一、願書提出期限 三月卅一日限

一、試験期日 四月一日午前九時ヨリ

一、試験ノ科目 國語及ビ算術

一、試験ノ程度 高等小學校卒業

一、試験ノ要具 筆答ニ要スル鉛筆小刀等

一、成績發表 四月四日午前十二時

内科

小兒科

花柳科

科(需應院入)

平町紺屋町

藤沼醫院

電話四五〇七番

本社の大懸賞

假面の怪人 始めて判明

回答應募者は 左記を精讀せられよ

昨夜より有聲座に差替上場された『ライオンマン』の最終篇に依れば疑問の怪人物は始めて假面を外した、果して何人であつたか? 意外、實に意外、夫れは同映畫の第一篇に於て唯一回顔を見せたフレデリック、カアベンディツユの甥、また婦人記者ステラードノバン嬢の兄に當る

ジョン、カアベンディツユ

である、而して善人であつた事は言を待たない、右に對する本社の懸賞募集に依り應募された

回答数は三千九百廿六通

の多きに達し『ジョンカアベンディツユ』と名前を明記せるも善人が悪人かを記せざるもの等あり、是れは甚だ遺憾ながら選に洩るゝ事となつた、而して嚴重に審査の結果

正解数は四百五十四通

であつて此内より百二十名の當選者を抽籤する事に決定した、抽籤の方法其他は

十五日の紙上に發表する

當籤の福運を握らるゝは誰れ人か? 今度はライオンマン以上に此點が興味を中心となつた、諸君刮目して待たれよ

夜業で

鯉漁船建造

廿五噸の大船

石城郡江名町折戸太清左衛門所有太成丸が来る十五日迄に落成する時は縣より獎勵金として四千五百圓の補助すべしとの事に當日迄に進水すべく機關器付の如きは殆ど夜業にて務めつゝあり竣工の上は静岡縣焼津

卒業兒童

九割が實業に

石城郡下に於ける小學校の本年度卒業生は尋常科男生二千百十五名女生二千五百名高等科二年生男生一千二百

九十九名、女生九百八名、同三學年男生九人女生五名合計六千三百五十一名で昨年と大差はないが昨年度に比し尋常科のみで男生六十七名の減少を見たに係はるか女生は百拾六名の増加を示し女子教育の向上を示し

祖父を叩き殺し 醫師を欺き埋葬

醫師を欺き埋葬

石城郡植田町字石塚蛭田源三郎(八)が老衰でころび腦震盪を起し九日午後六時頃死亡したと同町片岡醫師の診斷書により十一日埋葬したところ

死因が 疑はしい

の風説専らなので植田署で取調べた結果去る七日源三郎が自宅で長男啓藏(五)と些細な事争論した際傍らにゐた啓藏長男啓二(三)が突然棍棒で祖父源三郎の顔部を毆打したため昏倒し大騒ぎとなり看護

を盡したが九日夜死亡したので片岡醫師を欺き診斷書を作らしたものと判明十二日啓藏及び啓二その他關係者數名を植田署に引致渡



肉まんぢう

これは豚肉の叩き肉に葱のみぢん切を混ぜたのを餡としてうごん粉の皮に包んで蒸したものでニューマイと申します。まづ豚肉の赤肉

てゐるが未だ之等卒業生中等學校に進學する者は僅に五六分に過ぎずその九割までが直ちに實業に従事する有様で當局でも教育程度向上を圖るべく目下極力進學並に各種補習學校入學を奨勵中である

助川博士の 狂犬病に就て

十三日會講演

平町十三日會にては十三日午後六時より平銀行樓上に於て開會、這般世界の學界に疑問とされつゝある狂犬病源を發見して名聲を博した共濟病院助川博士の狂犬病に就てと題する講演ある由

一丁目火防組 唧筒試運轉

渡邊氏より寄附 平町一丁目火防組合にてはを細くたゞき葱もみぢんに切つて、兩方混ぜ合せ一寸醬油を落し、ごく少量砂糖を加へてよくまぜます、これが餡になるのです、次は皮ですが、粉をよくふるひ少量を鉢に入れて熱湯をつぎ、固く煉り、其中へ残り

の粉を入れて手のつかぬ程度にこねうごんを伸すやう

無一物で 酒六本を平ぐ 平署より引致 田村郡守山町御代外城四遠藤三郎(三)は昨日午後十一時頃平町搔堀小路渡邊旅館にて懷中無一物で酒六本を平ぐ平署に突出さる

に、棒で伸じ茶つぼのふたで圓く切り、前の餡を包んで口をよく括ります。これをセイロウに並べて充分(十分間程)蒸し、温いうちに醬油か、ソースで頂きます、若し御飯蒸の場合中は底を高くして入れまさんと湯が噴き上つてベトベトになります。

平町人事

- ▲出生 △南町一七 鈴木彌吉氏四男彌美
- ▲婚姻 △東京市牛込區山谷町五八 會社員 杉山理平氏(三)田町四五 狩谷 圓平氏四女ツル(二五)
- ▲死亡 △搔堀小路一 梅崎茂夫(五) △二丁目二七 大久保八十貞(六三) △紺屋町六二 住谷孝長(二)

水道 地鎮祭

上の原にて

平町水道擴張工事は愈々開始さるべく本日午後二時より上の原に於て地鎮祭を執り行、伏見町長臨席した

の餘地がない、足下が眞に此費用を不當支出と信するなれば如何様な事があつても認定する事が出来まいと僕は云ふのだ、知事の在否を確かめて出縣陳情する事が足下の警告なさうだが、居る筈で出掛けたのが居なかつた場合はどうする、

(第二)發電問題は足下の常に猫の眼の如く變轉極りなき言動を立證する一例に挙げたもので『お門違ひ』と考へるのは足下のヤブニラミである、また足下は水道問題に關し前後二回發表した印刷物に就いて、先のは専務時代、後の平株主になつてからだとの申譯ら

しいが、専務の肩書の有無は何れにもせよ足下と云ふ一個の人間には變りがないからう、然るに先には無償提供を契つたに拘らず二反目には逃口上を構へて居るから足下の誠意を疑らざるを得ない事になるのだ、世間では、足下が一時逃れに『無償提供』等と出放題な大見榮を切つた手前、瓜腹を斬らされるので専務をやめ背水の陣を敷くに至つたのだと云つて居る。お次ぎは如何に

赤井土質調査

石城郡赤井村大字西小川に於て来る十六七日頃赤井村委員

發狂を装ふ

一 共榮無盡の騒ぎ

平町南町福島共榮無盡會社平代理店大谷保太郎は其取扱へに係る業務上に失態ありとの故を以つて昨夜卅數名の加入者が同人方に押掛け不仕末を難詰せる所突如發狂の体を裝つて夜遅く迄加入者の家を軒別毎に叩き起し徘徊する爲め平署は穩便な方法に依り事の解決を爲さんと一先づ同人に宅控へを命じ小熊警部補主任となり事實の真相を取調べ中である

難詰されて 渡邊貫一氏より唧筒を一台寄贈された爲め本日試運轉を行へ聚樂館裏に新設した唧筒小屋に納めた

新入學の

讀者諸君の御家庭に、この四月から尋常一年へ入學なさる坊ちゃん嬢ちゃんがお祝ひの敬意を表する爲めに四月分の本紙を無代で進呈致します故ごうそ本月末に配達係が集金に參上致しました際御遠慮なくお知らせを願ひます

再び野崎君に呈す

川崎文治

野崎君が僕の所論を駁すと云ふからには、もう少し手堪へのあるものかと思ひの外昨日の警報時報を一覽するに及び夫れが前回の反覆かさなくば一種の申譯的な論辯を弄したに過ぎないものである事を知つて、いさゝか張り合へ抜けの感なくんばあらずである

(第二)足下は『五泊六日』の陳情を再び繰り返すも知事への陳情以外に關連して果すべき用務が此日數を要したものである以上、議論